

# 埋蔵文化財調査(市内遺跡)報告書

－平成24年度－

2013

千葉市教育委員会

## 例 言

1. 本書は平成 24 年度埋蔵文化財調査（市内遺跡）の報告書である。
2. 本調査は、千葉市が市域の開発事業等に対し、埋蔵文化財の取り扱いについての適切な措置を講じ、その保護を図るために国庫の補助を受けて実施した。調査組織は次のとおりである  
事業主体者及びその組織  
千葉市（主管）千葉市教育委員会生涯学習部生涯学習振興課

教育委員会事務局

教育長 志村 修  
教育次長 小池 よね子

生涯学習部

部長 原 誠 司

生涯学習振興課

課長 柏戸 利一  
担当課長 遠藤 悟  
主幹 塚越 達雄  
寺崎 幸雄  
補佐 君塚 常行  
担当補佐 木村 重雄

管理係

振興係

社会教育係

文化財保護室

室長 横田 正美  
主査 湖口 淳一  
学芸員 白根 義久  
主任主事 長南 基

埋蔵文化財調査センター

所長 飛田 正美  
主査 山下 亮介  
副主査 田中 英世  
副主査 篠瀬 裕一

3. 市内遺跡とは、市内に所在する旧石器時代から中世に至る遺物包含層・貝塚・集落跡・古墳・塚・野馬土手・城館跡等の遺跡を包括したものである。
4. 本書の執筆・編集は、篠瀬裕一が行った。
5. 各遺跡の調査により出土した遺物及び作成した図版・写真は、千葉市埋蔵文化財調査センターで保管している。

## 目 次

例 言	
目 次	
はじめに	1
1 東海道遺跡	3
2 高品尻籠遺跡	7
写真図版	
報告書抄録	

## 挿図目次

第1図 発掘調査遺跡位置図	2	第7図 高品尻籠遺跡トレンチ配置図	9
第2図 東海道遺跡地形図	3	第8図 高品尻籠遺跡遺出土遺物	9
第3図 東海道遺跡遺構配置図	4	第9図 高品尻籠遺跡平成22～24年度遺構配置 図	10
第4図 東海道遺跡出土遺物(1)	5		
第5図 東海道遺跡出土遺物(2)	6		
第6図 高品尻籠遺跡地形図	8		

## 写真図版目次

写真図版1 東海道遺跡	写真図版2 高品尻籠遺跡	写真図版3
1. 調査前状況	1. 調査前風景	東海道遺跡出土遺物(1)
2. 調査風景	2. 調査前風景	
3. トレンチ設定状況	3. トレンチ設定状況	写真図版4
4. 6Caトレンチ住居跡検出状況	4. 1Faトレンチ調査風景	
5. 2Cdトレンチ溝検出状況	5. 2Iaトレンチ調査風景	東海道遺跡出土遺物(2)・高品
6. 6Hbトレンチ住居跡検出状況	6. 4Gbトレンチ	尻籠遺跡出土遺物
7. 3Edトレンチ住居跡遺物検出状況	7. 1Faトレンチ溝跡検出状況	
8. 2Fトレンチ住居跡貝層検出状況	8. 2Bbトレンチ	

## はじめに

千葉市では、市域の開発事業に対して、埋蔵文化財の取扱いについて適切な措置を講じるため、昭和 63 年度から国庫の補助を受け、民間の開発事業に先立ち、市内に所在する遺跡の規模や性格を把握することを目的とした発掘調査を実施している。

本書は、その発掘調査の成果をまとめたものであり、今回は平成 24 年度に実施した 2 遺跡の発掘調査の成果について報告する。

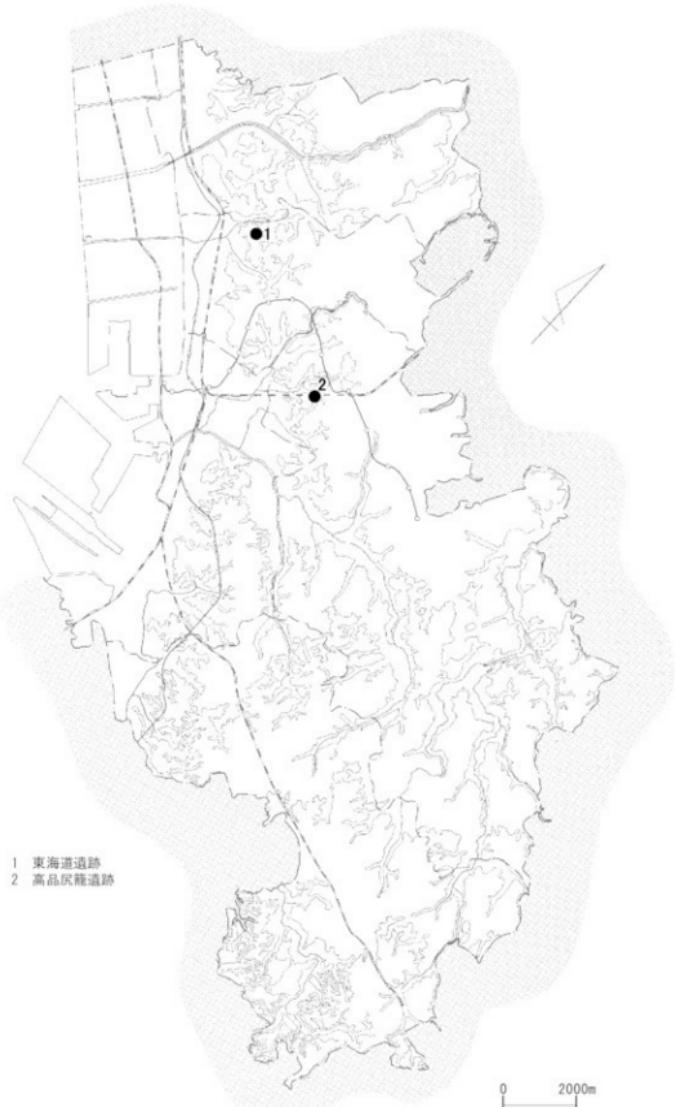
調査対象遺跡の概要は、下記の通りである。

### 1. 東海道遺跡

1. 調査の種類 確認調査
2. 調査地 千葉市稻毛区宮野木町 846-1・846-4・848-1 の各一部
3. 調査の原因 宅地造成
4. 原因者 個人
5. 調査担当者 篠瀬裕一
6. 調査期間 平成 24 年 6 月 21 日～7 月 6 日
7. 調査面積 2998.51 m<sup>2</sup> のうち 265 m<sup>2</sup>

### 2. 高品尻龍遺跡

1. 調査の種類 確認調査
2. 調査地 千葉市若葉区高品町 1060-3 他
3. 調査の原因 宅地造成
4. 原因者 有限会社 開成
5. 調査担当者 篠瀬裕一
6. 調査期間 平成 24 年 8 月 22 日～8 月 29 日
7. 調査面積 2400 m<sup>2</sup> のうち 200 m<sup>2</sup>



第1図 発掘調査遺跡位置図

## 1 東海道遺跡(第2～5図 写真図版1・3・4)

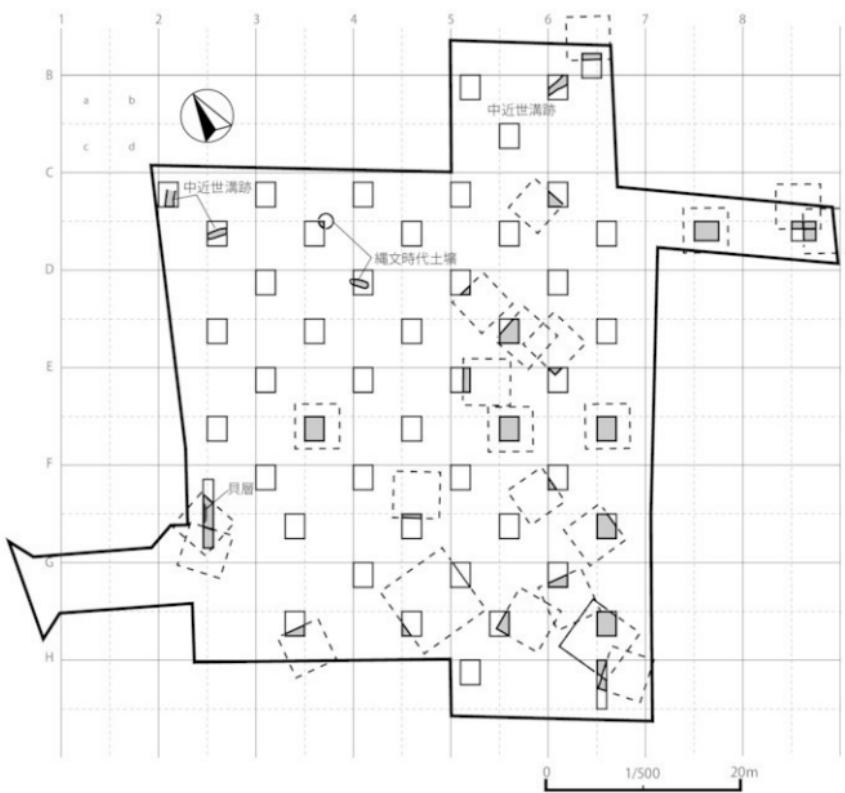
**遺跡の位置と環境** 遺跡は旧海岸より内陸に約2.3kmの標高約24mを測る台地上に立地する。北に向かってのびる舌状台地の基部にあたり、この付近で台地の幅が少し狭くなっている。この遺跡と同じ台地の北側に宮野木原古墳群、南に縄文時代早・中期の包蔵地である宮野木原南遺跡が所在し、東西には旧石器時代から縄文・弥生・古墳・奈良・平安時代におよぶ複合遺跡である牛尾舛遺跡、南には縄文時代の貝塚である東ノ上貝塚があり、稲毛区の沿岸部では比較的遺跡密度の高い地区である。

**調査の結果** 調査前の現状は畠地であった。耕作により、擾乱がソフトローム層に及んでおり、表土下の黒褐色土はほとんど確認できなかった。部分的に擾乱は1m以上にも及んでいた。基本層序は、表土である耕作土層が厚さ20～70cmあり、その下がソフトローム層である。耕作土層は平均すれば深さ50cm程度である。検出された遺構は、古墳時代から奈良・平安時代にかけての堅穴住居跡23軒のほかに、縄文時代の土坑2基、中近世溝跡3条である。住居跡は調査区全域に広がり、さらに周辺の台地上にかなり広範囲に集落跡が展開していることが予想される。時期的には古墳時代後期が集落の中心となるものと予想される。F2区トレンチでは、堅穴住居跡の覆土からかなり保存状態の良い貝層（アサリ・ハマグリ主体）が検出されている。

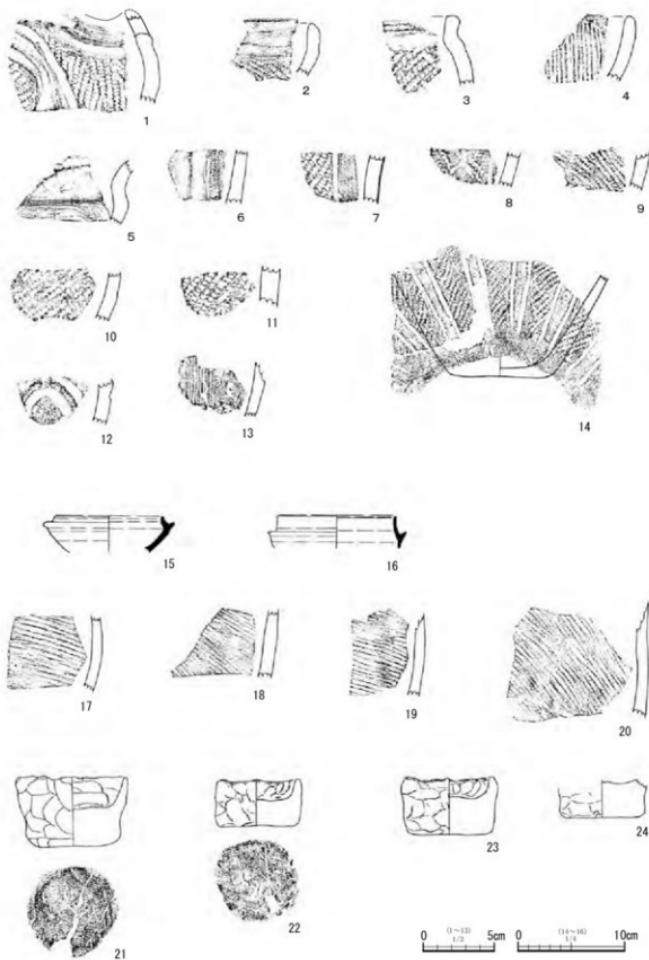
**出土遺物**（第4・5図） 1～14は、縄文土器で中期加曾利E式であるが、E式でもEIIからEIII式に相当する。15・16は須恵器蓋杯、17～20は須恵器甕の胴部破片である。21～24は古墳時代の手づくね土器で、3Cdトレンチからまとめて出土した。遺構に伴うものではないが、本来住居跡に伴う遺物が擾乱により原位置を離れてしまったものと推定される。25～35は古墳時代の土師器である。このうち26・30～35は3Edトレンチから一括で出土したもので、住居跡に伴うものである。36は中世瀬戸美濃焼の捕鉢、37は陶製の管状の錘で近世のものと思われる。



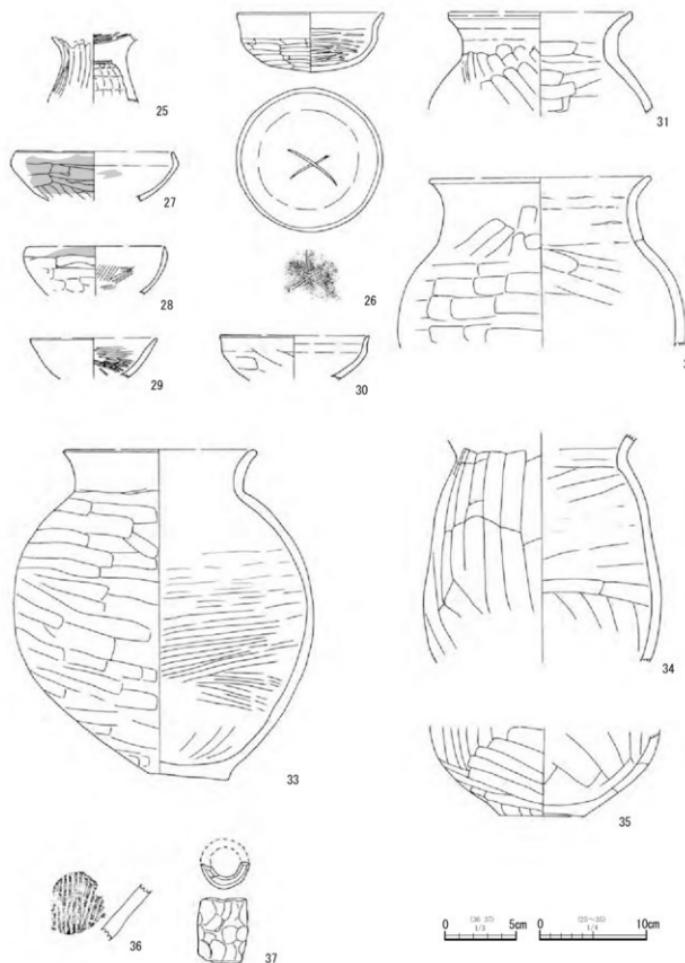
第2図 東海道遺跡地形図 (1/2500)



第3図 東海道遺跡遺構配置図



第4図 東海道遺跡出土遺物(1)



第5図 東海道遺跡出土遺物(2)

## 2 高品尻籠遺跡(第6～9図 写真図版2・4)

**遺跡の位置と環境** 高品尻籠遺跡は、JR 総武線の沿線に位置し、東千葉駅と都賀駅間の少し都賀駅よりに所在する。葭川の廿五里支谷によって開析された南へのびる標高 30m弱の台地上に占地し、北西側の台地の根元を總武線が通っている。この遺跡の周辺は、国指定史跡である荒屋敷貝塚をはじめとして、東寺山貝塚や二十五里貝塚、草刈場貝塚などの大型の貝塚が密に分布し、そのほか戸張作遺跡・石上遺跡・高品城跡など、旧石器時代から中世にかけて多くの遺跡が所在する。

この遺跡では、平成 22 年と 23 年に確認調査が実施され、縄文時代の土坑 1 基、古墳 2 基、奈良・平安時代の竪穴住跡 4 軒・方形周溝状遺構 2 基、中・近世の土坑 15 基・溝状遺構 7 条などが確認されている。これまでの調査により、この遺跡は古墳時代から平安時代にかけての墓域と小規模な集落跡であることが判明している。

**調査の結果** 今回の調査区は遺跡範囲の北西部の周辺部分で、大部分は山林であったが一部は道路として使用されていた。全体にはほぼ平坦であるが、調査区南西側は緩く傾斜している。

トレンチの設定は昨年度の基準杭を使用して、基本的に 10m グリッドに 2m × 5m のトレンチを一ヵ所ずつ設ける方式で行ったが、調査区の大部分が山林であり樹木が存在するため、トレンチの配置は樹木を避けて行なった。

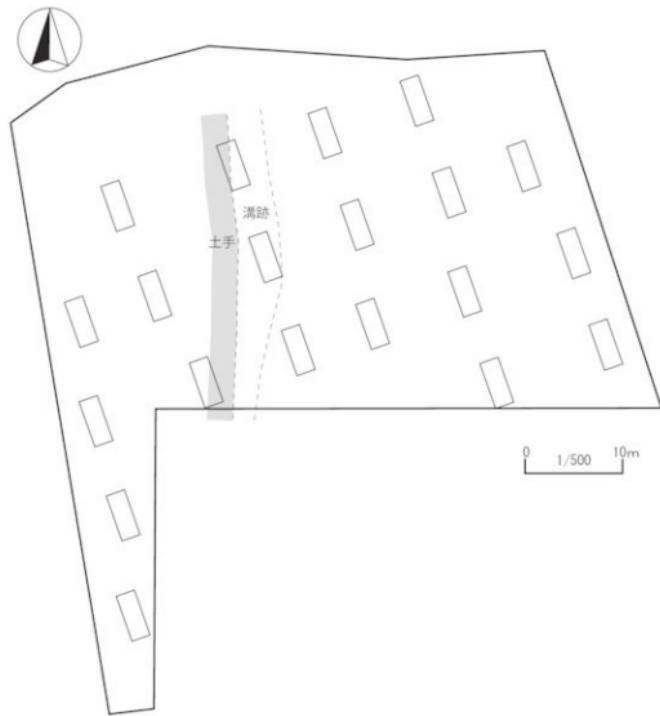
基本層序は、I 層：現表土層（厚さ 10～20 cm）、II 层：暗褐色土層（厚さ 20～30 cm）、III 层：暗褐色土層（ローム層漸移層、厚さ 20～30 cm）IV 层：褐色土層（ソフトローム層）である。

今回の調査では、遺構は昨年度の調査でも検出されている溝跡の続きが確認されたのみで、遺物も縄文土器がわずか 7 点検出されたのみである。溝跡は地表を 40～50cm 程度掘り下げたもので、その廃土が南側に積み上げられ土手状になっている。この溝跡は、近世以降の地境を示すものである可能性があるが、溝底面に少し硬化も認められるので通路としても使われていたようである。

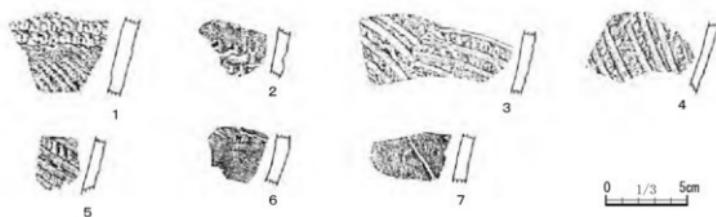
**出土遺物** (第 8 図) 図に示したものがすべての出土遺物である。1・2 は縄文時代前期の土器片で 1 が前期前半、2 が浮島式である。3～7 は後期の加曾利 B 式土器である。



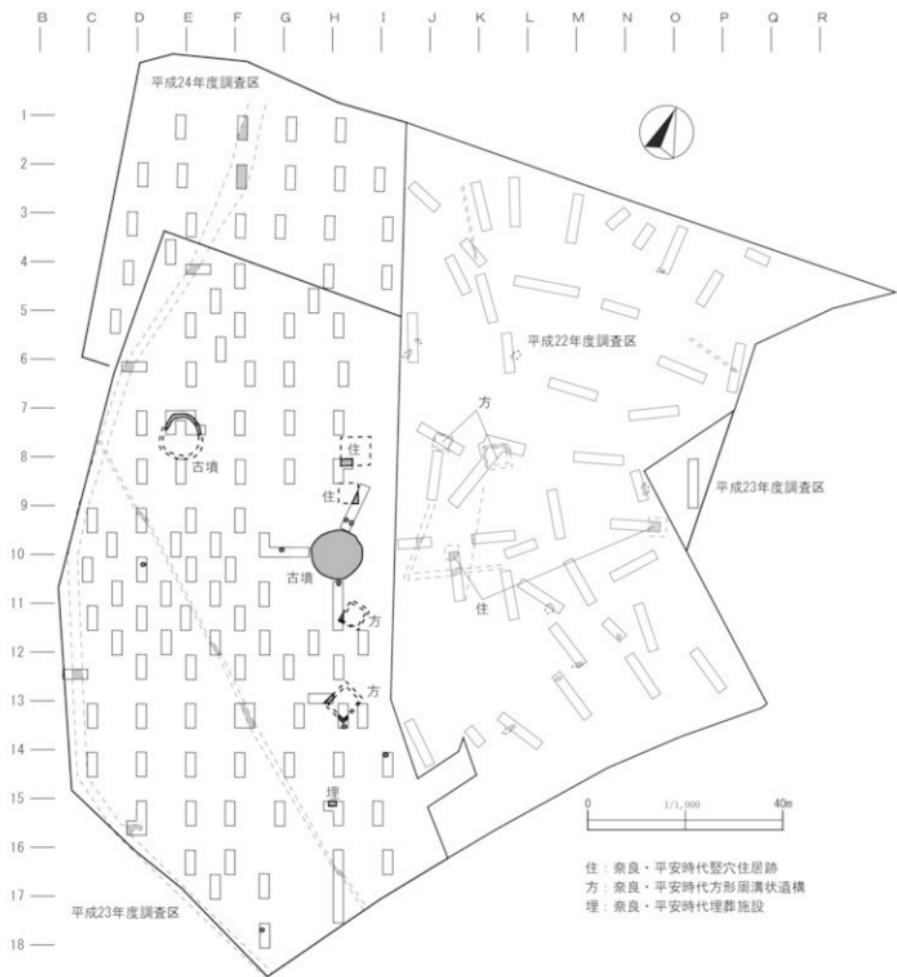
第6図 高品尻籠遺跡地形図 (1/2500)



第7図 高品尻籠遺跡トレンチ配置図（1/500）

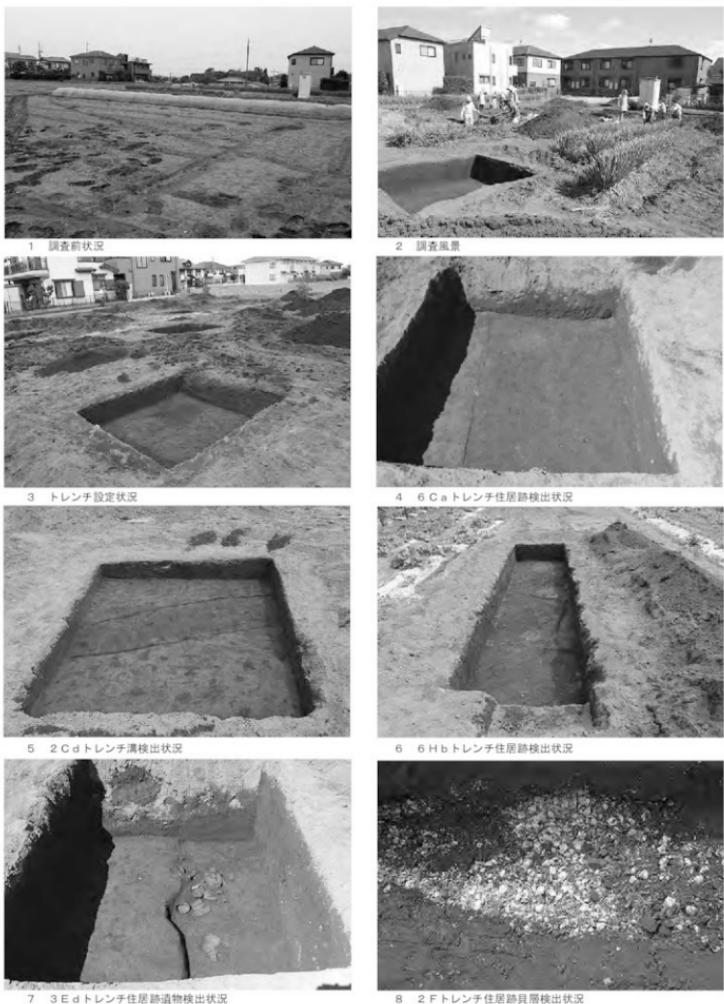


第8図 高品尻籠遺跡出土遺物

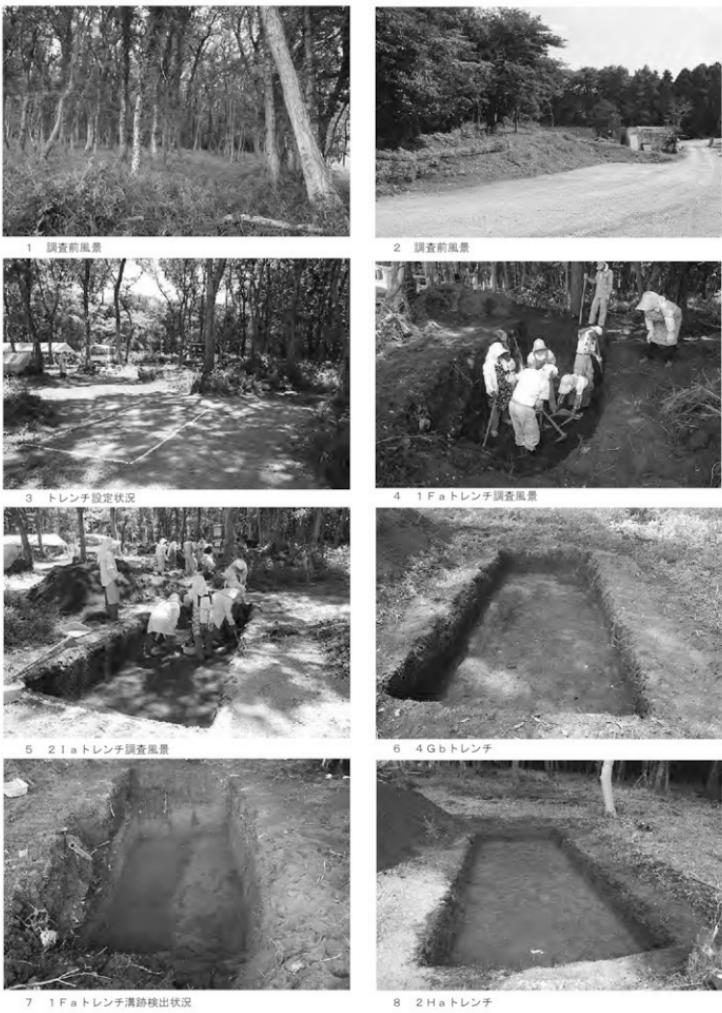


第9図 高品尻籠遺跡平成22～24年度遺構配置図

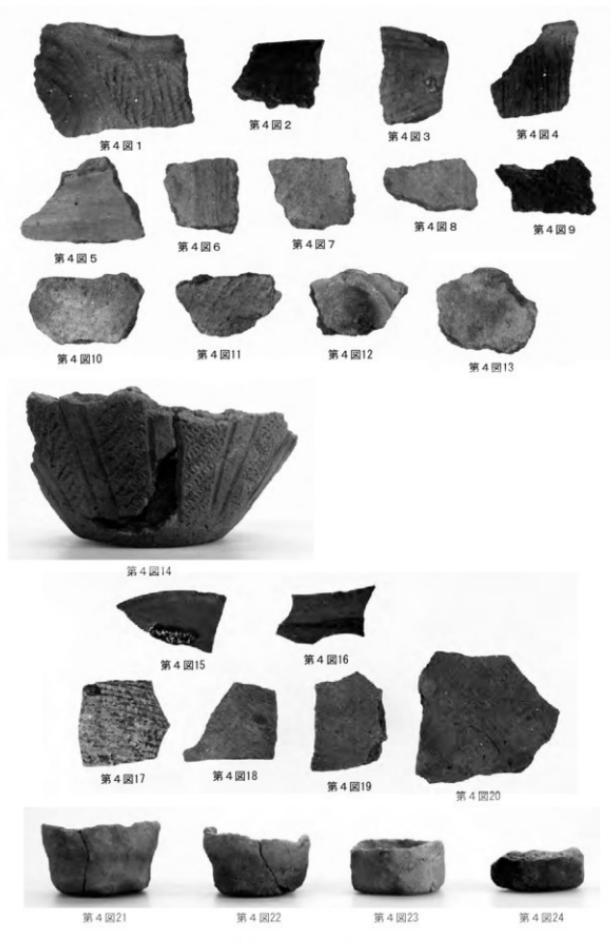
写真図版 1 東海道遺跡



写真図版2 高品尻籠遺跡



写真図版3 出土遺物

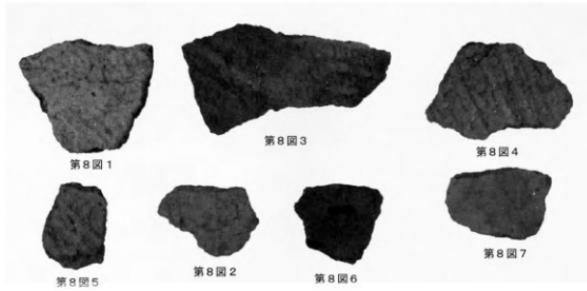


東海道遺跡出土遺物(1)

写真図版 4 出土遺物



東海道遺跡出土遺物(2)



高品尻籠遺跡出土遺物

## 報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいちらうさ（しないいせき）ほうこくしょ
書名	埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書
副書名	
巻次	
シリーズ名	市内遺跡報告書
シリーズ番号	第25番目
編著者名	栗瀬 裕一
編集機関	千葉市埋蔵文化財調査センター
所在地	〒260-0814 千葉市中央区南生実町1210 TEL. 043-266-5433
発行年月日	西暦2013年3月31日

所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	経緯度		調査期間	調査面積	調査原因
				北緯	東経			
ひがしおいどう 東海道 いせき 遺跡	いなげくみやのぎらう 稻毛区宮野木町 846-1他	12104	稻毛区	35 -8 39 3	140 5 42 42	20120621～ 20120706 (確認調査)	265/ 2998.51m <sup>2</sup>	有料老人ホーム 建設
たかしなしりかご 高品尻籠 いせき 遺跡	わかばく たかしなじらくご 若葉区 高品町 1060-3他	12104	若葉区	35 -66 37 46	140 8 30	20120822～ 20120829 (確認調査)	200/ 2400m <sup>2</sup>	共同住宅建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ひがしおいどう 東海道 いせき 遺跡	貝塚	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	縄文時代土坑2基 古墳時代住居跡23軒 中近世溝跡3条	縄文土器（中期） 古墳時代～奈良・平安時代 土器・須恵器	古墳時代の集落跡を確認し、周辺部に集落跡は広がっているものと推定される。
たかしなしりかご 高品尻籠 いせき 遺跡	貝塚 集落跡	縄文時代 古墳時代	近世溝跡1条	縄文土器（前期・後期）	溝跡には土手が伴う。
要約	東海道遺跡では古墳時代の集落跡が検出された。 高品尻籠遺跡では近世の溝跡が1条検出された。				

埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書

－平成 24 年度－

発 行 日 平成 25 年 3 月 31 日

発 行 千葉市埋蔵文化財調査センター  
〒260-0814  
千葉市中央区南生実町1210  
TEL 043-266-5433

印 刷 株式会社 正文社  
〒260-0001  
千葉市中央区都町 1-10-6  
TEL 043-233-2235